

# 全ての子供にとって居心地のよい学校づくり ～スクールカウンセラーとの連携～

第1回スクールカウンセラー連絡協議会において、チーム学校の一員であるスクールカウンセラーとの連携について協議しました。

初期対応・自立支援

## スクールカウンセラーとの連携 STEP 1

教育相談担当とスクールカウンセラーで情報を共有し、初期対応・自立支援の取組を進める！



教育相談担当

気になる子供や保護者については、スクールカウンセラーにつなぎ、早期に対応できるようにしています。カウンセリング後には、学校として「今後、誰が、どのように対応するのか」等を協議しています。

【例】カウンセリング終了後、その日のうちに情報共有する時間を設定する。

- ◆教育相談担当を通じて、学校長が対応や状況を把握できるようにする。
- ◆内容によっては、担任や学年主任、養護教諭等も同席し、今後の対応について検討する。
- ◆次回、スクールカウンセラーが来校した時に、事後の対応や子供・保護者の様子について教育相談担当が情報提供する。

※初期対応を確実にを行うためのポイントは、「お役立ち情報 平成29年1月号」にもまとめていますので、参考にご覧ください。

一方で、こんな声も…

### 《教育相談担当のつぶやき》

「教育相談だより」で、スクールカウンセラーの来校日を子供や保護者に伝えているけれど、相談者が少ない日もあります。個別相談以外にもスクールカウンセラーを活用できないだろうか…。

### 《スクールカウンセラーのつぶやき》

それぞれの学校で、相談業務に取り組んでいるけれど、個別相談以外にも、学校の一員として、先生や子供、保護者の力になりたいわ…。

次へのステップアップ!!

全ての子供の  
日常生活への対応

## スクールカウンセラーとの連携 STEP 2

スクールカウンセラーの専門性を活かして、気になる子供・心配な子供を含む、全ての子供の日常に目を向けた取組を進める！

＜実際の取組例＞

- ◆休憩時間や給食時間等、スクールカウンセラーと児童生徒が一緒に過ごす時間・場を設定する。
- ◆児童生徒相互の関係性、集団の状態等についてのアセスメント（評価）を依頼し、よりよい学級づくりに必要な取組についてアドバイスをもらう。

- ◆実際の授業や教室掲示を見てもらい、障がいのある児童生徒に関する支援等についてアドバイスをもらう。
- ◆教職員のカウンセリング能力向上のための校内研修を実施する。

- ◆生徒会活動での活用例「心理教育プログラム」  
委員会活動の中で、スクールカウンセラーによるリラクゼーション講習を実施する。それを受けた委員会の生徒が、自分の学級で研修会を実施する。



全ての子供にとって居心地のよい学校づくりへ

学校内連携の構築から、新たな問題を生まない学校づくりへ

(生徒指導担当・主事、養護教諭、特別支援教育主任等との連携の強化)

“個別対応”だけでなく、スクールカウンセラーや関係機関等と協働し、新たな問題行動や不登校を生まない土壌づくりを進めましょう！